

# 平成 25 年度事業報告書

大正琴による生涯学習活動を通じて、大正琴音楽の次世代への伝承と芸術文化の振興に寄与する目的で次の事業を行った。

## 1. 大正琴音楽文化の振興及び次世代への継承事業

### 1-1 次世代大正琴普及事業

#### (1) 小・中・高等学校等における大正琴普及事業（大正琴寄贈・講師派遣）

##### ①事業内容

次世代の大正琴愛好者を育てるためには、子ども達に大正琴音楽に接する機会を与え、音楽の楽しさを体感させる必要がある。加えて、大正琴が大正元年にタイプライターと二弦琴（八雲琴）を掛け合わせて発明された、日本固有の楽器であることを教えることも日本の文化を伝える教育となる。そこで、当法人の社員等から使用しなくなった大正琴を譲り受け、メーカーで修理し、再生したものを全国の小中高校等の教育機関に寄贈するとともに、社員を講師として派遣し講習を実施することにより、大正琴音楽の素晴らしさと大正琴の歴史を次世代に伝承する。

##### ②実績

- ・ 100 台の大正琴を 19 箇所の教育機関へ寄贈した。内、メーカー無償修理 20 台を含む。
- ・ 45 箇所の教育機関へボランティアを含め延べ 931 回の講師を派遣し、643 人が受講した。

##### ③成果

受講代表児童から講習に対する感想文を提出して貰っている。感想文の内容から、大正琴が日本固有の楽器であることを理解してもらえたとともに、大正琴音楽の奥深さと楽しさを知ってもらうことができた。

#### (2) 全国子ども大正琴コンクール

##### ①事業内容

次世代の大正琴愛好者を育てるためには子ども達が継続して大正琴音楽に接し、成果の確認や目標となる発表の場を設けることが大切である。

毎年 1 回全国子ども大正琴コンクールを開催し、大正琴音楽文化に接した子ども同士が交流を図る機会を作るとともに、切磋琢磨することにより相互の技術向上を目指す。

全国から一箇所に集めてコンクールを行なうことが難しい現状を踏まえ、一般的な会場で演奏を披露して審査する形式を「ライブ参加の部」と定め、これとは別に、会場に来場せず録画映像により審査する「ビデオ参加の部」

を設けることで、地方で大正琴音楽文化に触れる子ども達にも目標の場を作る。

更に、入賞者に当法人主催の演奏会において、発表の場を与え、世代間の交流を図る。

## ②実績

日 時：平成 25 年 8 月 24 日(土)

会 場：ウィルあいち ウィルホール（愛知県名古屋市）

参加者の範囲：全国の子ども達

参加人数：ライブ参加の部 21 グループ（個人）91 名

ビデオ参加の部 37 グループ（個人）291 名

入場者：250 名

最優秀賞入賞：4 グループ（個人）

## ③成果

前回の平成 24 年度よりも多くの参加者が募り、また、今回は新た試みとしてインターネット中継を行ったことにより、全世界へ大正琴文化を配信することができた。更に、当法人ホームページを通じて入賞者の映像も提供した。

## 1-2 大正琴定期演奏会

### (1)平成 25 年度大正琴定期演奏会

#### ①事業内容

社員の指導するグループが出演する演奏会を開催し、参加者の大正琴を楽しむ姿を確認するとともに、広く一般の来場者を招き、大正琴による生涯学習活動の効果を知らしめ、より多くの方々に大正琴音楽のすばらしさを周知する。

更に、社員を中心とした高度な演奏技術に裏打ちされた演奏を披露し、日本文化としての大正琴音楽の芸術性向上を図る。

#### ②実績

- ・大正琴の日コンサート

日 時：平成 25 年 9 月 9 日(月)

会 場：アスナル金山 明日なる広場（愛知県名古屋市）

参加人数：3 グループ 21 名

入場者：500 名

- ・平成 25 年度定期演奏会

日 時：平成 26 年 2 月 8 日(土)

会 場：静岡県清水文化会館 マリナート（静岡県静岡市）

参加人数：22 グループ 908 名 ※悪天候につき、2 グループ欠場

入場者：350 名

### ③成果

2つの事業を通して、多くの方々に大正琴による生涯学習の効果を知らしめ、大正琴音楽の素晴らしさを周知し、開催地域の大正琴音楽表現の向上に寄与した。

## 2. 組織活性化事業(普及功労者表彰事業・機関誌の発行)

### (1) 普及功労者表彰事業

#### ①事業内容

永年にわたり大正琴音楽の次世代への伝承と芸術文化の振興に努めた社員や功労者の栄誉を称え表彰する。他の模範として知らしめることで、社会的信頼を確保することができ、社員の参画意欲を高める。

#### ②実績

平成25年6月5日にホテル名古屋ガーデンパレスの第1回通常総会会場にて、指導者として永年にわたり大正琴音楽の指導に尽力した者22名を当法人の規定により表彰した。

#### ③成果

表彰により、社会的な功労が公に明らかになり、大正琴の指導活動や演奏活動などにおいて社会的信用の確保を図り、大正琴文化活動の参画意識を高めることに寄与した。

また、活動する事が評価されることにより、一層よろこびや生きがいを感じ、それがまた次の活動に繋がっている。

### (2) 機関誌「協会たより」の発行

#### ①事業内容

法人活動の結果報告と事業計画を周知し、当法人の活動が円滑に運営されるようにするため、年1回「協会たより」を発行する。

#### ②実績

平成25年9月に4,500部を発行した。

#### ③成果

社員、一般、メディア関係者等に配布することで、当法人の活動に対する理解が深まり、各事業への一層の協力を促せた。

## 3. 法人維持管理事業

### (1) 「協会案内」の発行

#### ①事業内容

大正琴音楽文化と当法人の活動に対する理解を深めるため、大正琴の歴史、当法人の沿革および活動に関する情報を、「協会案内」として役員改選等に合わせて2年に1度程度発行する。

## ②実績

本年度は当法人の公益化に合わせて平成 25 年 4 月に 6,000 部を発行し、社員等を通じて関係する団体や法人および個人に配布した。レイアウト構成の見直しも行い、従来の内容に加え、前々年度以降行った大正琴誕生 100 年記念事業の一環である「大正琴の日」制定とロゴマークの紹介や、公益社団法人移行の経緯とこれに伴う協会マークも記載した。

## ③成果

広く大正琴音楽文化および当法人に対する理解を深めることができた。

## (2) ホームページの制作

### ①事業内容

広く一般の人々の大正琴音楽文化と当法人の活動に対する理解を深めるため、ホームページの公開を通して情報を提供する。

### ②実績

当法人の公益社団法人化に合わせて平成 25 年 4 月に大幅リニューアルを行った。

### ③成果

従来の旧システムによるホームページに比べて見やすくなっただけでなく、ブログの仕組みを取り入れたことで活動をタイムリーに紹介できるようになり情報発信力が増した。また、大正琴誕生 100 年記念事業の一環である「大正琴の日」制定ならびにロゴマークの紹介など内容も一層充実し、大正琴音楽文化の振興の一助となった。

## 平成 25 年度事業報告附属明細書

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので記載事項はありません。